

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371100849
法人名	株式会社エヌエス
事業所名	グループホーム なごみの里
訪問調査日	平成21年4月6日
評価確定日	平成21年4月24日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2371100849
法人名	株式会社エヌエス
事業所名	グループホーム なごみの里
所在地	名古屋市港区東蟹田1001番地 (電話) 052-309-3219

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年4月6日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】(平成21年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤	7人, 非常勤 17人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,800 円	その他の経費(月額)	28,200 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	100 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成21年3月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	74 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	クリニック サンセール				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の中に立地するホームは、デイサービスと廊下でつながっており、温泉の湯を使用した風呂を利用する等、デイサービスの設備、行事を活用している。庭には四季折々楽しめる木々が植えられ、広い玄関には外出時の靴着脱に最適の椅子が置かれている。ゆったりとしたリビング入り口のカウンターで仕切られた事務室から全体を見渡すことができ、大きな窓からの光で明るく、多人数が座れるソファ、テレビ、家事に参加しやすいカウンターキッチン、出入り自由のテラス等見守りのもと各々がその人らしく日々過ごせるよう工夫されている。ホーム周辺にオーナーの畑があり、入居者と共にやれる範囲で作物を育て収穫し、その安心安全な食材で食事を作り皆が支えあい思いやって楽しく生きられる「自給自足」のホームを目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は職員と話し合えるところから改善しサービスの向上に繋がっていきたくと考えている。具体的には一人ひとりの状態に合った具体的な介護計画の作成とその実践、地域住民参加の避難訓練の実施の2点である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に評価の意義を伝え、自己評価票を渡し全職員が取り組んだ。難しい項目もあったが職員は年1回、日々の業務内容、自身の介護、施設のこと等への振り返りの機会となり、管理者は職員の率直な意見や考えを知り励みとなった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	町内会長、民生児童委員、老人会長、施設長、職員等が参加して年間6回開催し、次回は4月を予定している。家族が参加することもあるが、玄関に通知を出す程度で特に家族個別への開催通知はしていない。地域、町内行事の情報を得たり、ホームでの行事、近況、外部評価報告をしている。会議でのアドバイスを受け、デイサービスと共通で使用しているゴミステーションの消毒の強化を実施するなど積極的に取り組んでおり、今後も課題解決やサービス向上へ向け意見交換、地域の情報収集、地域への情報発信の場として活用していきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は年に1回外部評価後多くの参加が得られるよう平日と休日の日程を設け開催している。また、ホームでの祭りやクリスマス会、面会時等家族同士のふれあいの場があり、意見や要望、苦情等を話しやすい環境づくりに心がけている。入居時に相談窓口や苦情連絡先を伝え、家族に入居者本人が不満をもっていないか定期的に尋ねたりもしている。玄関に苦情用紙を設置しているが利用はなく、アンケート結果からも職員の柔軟な対応から家族と良好な関係にあることがうかがえる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し回覧板で地域の情報を得たり、夏祭りやホームの紹介に利用している。散歩時は挨拶に心がけ地域の方と顔馴染みの関係づくりに努めている。時に野菜やお花を届けて下さる方やイベント時に遊びに来て食事を共にする方もいる。運営推進会議を通じて地元の行事にも声かけしてもらい、祭り等に参加している。ゲームや話し相手をする中学生のボランティアや落語の定期的訪問を受け入れている。子ども110番を受託している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの目指すものとして「その人らしい生活を大切にす、笑顔の絶えない楽しい暮らし、地域に根ざした暮らし」を掲げ開設当初からホーム独自の理念として継続している。画一的ケアでなく、入居者の立場にたったサービスに心がけ、楽しくその人本位の生活ができるよう支援している。地元民であるオーナーは地域密着型サービスの果たすべき役割を充分認識しており、理念の3本柱の一つに盛り込んだ。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や各ユニットリビングに掲示している。管理者はスタッフ会議等折を見て話しの中で理念の意識づけを図り、職員は趣旨を理解し、入居者一人ひとりのリズムやペースに合った笑顔のある暮らしの実現に向け支援している。家族には入居時に説明し、地域の方へは運営推進会議でホームの様子を伝え理解を得るよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し回覧板で地域の情報を得たり、夏祭りやホームの紹介に利用している。散歩時は挨拶に心がけ地域の方と顔馴染みの関係づくりに努めている。時に野菜やお花を届けて下さる方やイベント時に遊びに来て食事を共にする方もある。運営推進会議を通じて地元の行事にも声かけしてもらい、祭り等に参加している。ゲームや話し相手をする中学生のボランティアや落語の定期的訪問を受け入れている。子ども110番を受託している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価の意義を伝え自己評価票を渡し全職員が取り組んだ。難しい項目もあったが職員は年1回、日々の業務内容、自身の介護、施設のこと等への振り返りの機会となり、管理者は職員の率直な意見や考えを知り励みになっている。前年度の改善項目は具体的な介護計画の実践や地域住民参加の避難訓練を実施してサービスの向上に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生児童委員、老人会長、施設長、職員等が参加して年間6回開催し、今回は4月を予定している。家族が参加することもあるが、玄関に通知を出す程度で特に家族個別への開催通知はしていない。地域、町内行事の情報を得たり、ホームでの行事、近況、外部評価報告をしている。会議でのアドバイスを受け、デイサービスと共通で使用しているゴミステーションの消毒の強化を実施するなど積極的に取り組んでおり、今後も課題解決やサービス向上へ向け意見交換、地域の情報収集、地域への情報発信の場として活用していきたいと考えている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や時には職員も港区事業者連絡会に参加し交流に心がけ、顔なじみの関係づくりに努めている。今年度協働して解決しなければならない困難事例はなく、区役所の担当窓口等行政へホームからの定期的、積極的な情報提供、現状把握へ向けての取り組みは行なわれていないが、生活保護係りとの連携が図られており、都度相談できる関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	フロアリーダーが一人ひとりの暮らしぶりや近況を手紙に記し、毎月発行の「なごみ便り」とともに家族へ郵送している。家族の面会時に口頭でホームでの様子、健康状態を伝え、特に健康状態に変化があれば管理者が電話等で速やかに連絡し、信頼関係を築いている。金銭管理は自分で買い物支払いをする方やお守り程度、自身で所持している方もある。ホームでの預かり金は6カ月毎の明細報告で残高を確認してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に1回外部評価後多くの参加が得られるよう平日と休日の日程を設け開催している。また、ホームでの祭りやクリスマス会、面会時等家族同士のふれあいの場があり、意見や要望、苦情等を話しやすい環境づくりに心がけている。入居時に相談窓口や苦情連絡先を伝え、家族に入居者本人が不満をもっていないか定期的に尋ねたりもしている。玄関に苦情用紙を設置しているが利用はなく、アンケート結果からも職員の柔軟な対応から家族と良好な関係にあることがうかがえる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職による入居者のダメージを最小限に抑えるため、管理者は職員と個人面談や都度相談できる機会を設け意見、悩みを聞いたり、個々の努力、勤務状況を把握し、感謝の気持ちを伝え、魅力ある職場作りに努めている。馴染みの関係作りのため職員がユニット間を移動することもあるが入居者、職員双方にスムーズに受け入れられている。離職について特に伝えませんが今までダメージはない。新入職員を入居者に紹介するが、今回「名前がわからない」とのアンケート結果をうけ、職員はエプロンに名前をはっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は申し出があればシフトを考慮、費用を負担し管理者も同行しているが、参加は特定されがちである。今年より内部研修を充実し、職員のモチベーションを高めていきたいと考えている。具体的には職員一人ひとりが入居者18人全員のことを周知して介護にあたるよう担当の職員による情報提供を行っている。救急救命の講習は理解はできているが即実践できるよう繰り返し参加していきたいと考えている。継続研修は段階に応じて声かけしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者連絡会、名古屋市認知症グループホーム協議会に加入し、研修会等で職員間の交流が図られている。名古屋市介護サービス事業者連絡研究会や区内の勉強会に参加したり、近隣のグループホームとは空き情報を交換する等互助の関係にある。管理者は建物続きのデイサービスの生活相談員も兼務しており、活かせそうなことは職員に伝え会議で検討し、サービスの向上へ繋げている。デイサービスでの行事に出かけることもあり、職員は年1回の合同交流会に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は実施しないが、入居前に本人に見学に来てもらい場の雰囲気を感じて納得して入居してもらうようにしている。入院中の方は病院を訪問しケースワーカーに話を聞いたりしている。職員に相談し了承が得られれば入居に至っている。相談を受けた際の家族の希望によっては、グループホームに限らずできるだけ家族や入居者に合った最善のサービスを提案するなど柔軟な対応に努めている。本人の安心が保たれるよう話やすい環境づくりに心がけ、その都度話し合い受け止めるようにしている。時には家族に面会や会話を依頼したり、逆に家族に距離を置いてもらう等状況に応じて工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	三食を共にし、生活活動全般（掃除、料理、洗濯等）や行事を通じて得意分野を活かし、介護される一方で、共に暮らす者として入居者に尊敬の気持ちを持ち皆で支え合い生活を楽しめるよう心がけている。日々の関わりの中で職員が手を出し過ぎず上手く見守り、「ありがとう」と感謝されたり「大変だったねえ、お疲れ様」といたわりの言葉をかけてもらうこともある。職員は家族のように入居者へ温かい気持ちで接し、入居者同士も仲がよく穏やかな表情で会話されていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族よりの聞き取りや入居後の毎日の関わりを通じて希望や意向等の把握をしている。把握が困難な場合には家族にセンター方式の家族版の記入を協力してもらったり、職員がつばやきや表情、態度、行動を観察し些細なことでも見逃さず汲み取る努力をしている。入居者の立場になって関心や興味を表したことは焦らず意欲を引き出す工夫をしている。職員は暮らしの現状や日々汲み取った情報を申し送りや会議、記録等で共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>フロア会議に計画作成担当者も出席し、入居者担当職員を中心に入居者の状況を話し合い介護計画を作成している。本人や家族の意見も聞いているが、この段階で言われる方はあまりなく、できあがった計画を見て希望を言われる方もあり、その時は要望を加え入居者本位の介護計画を作っている。これに家族からサイン、印鑑を頂き完成させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>長期（6カ月）短期（3カ月）の援助目標を立て見直しを行なっているが、基本的には1カ月程で見直しを行い、介護計画を見ながら介護日誌記録とずれていることがあると随時変更している。落ち着いた状態で変化がない入居者には、予防としてできることをやってもらうよう少しずつ増やすなど、話し合い新たな目で見直している。見直しの場合も家族に説明している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者は畑で季節の野菜を収穫することを楽しんでいる。フロアは広い空間であり、入居者が日々ゆったりと過ごせることを第一にサービスに努めている。医療連携体制加算を受けており、看護師とは24時間相談でき、提携医療機関とも24時間連絡できる体制になっている。歯科医も入居者の状況により往診している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医には家族の同行があれば受診可能であり、受診結果は報告され共有している。大抵の家族が入居契約時にホームの協力医療機関をかかりつけ医としている。歯科もほとんどの入居者が協力歯科医に診てもらっている。健康面、医療面、安全面で心配な点はないという意見がアンケートから多く見られた。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居された時から共に生活しているうちに入居者への思いが深くなり、徐々に体力の変化を見るにつけ、最後まで看たいという管理者や職員の思いが強くなり、看取り介護を支援する体制となった。入居時に「当施設における看取り介護の考え方」を渡し、視点や支援など実施内容を理解してもらっている。現在は軽度の人が多くまだ経験していないが職員も勉強をして家族と話し合いができるようにしていきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	手洗いやトイレへ誘導する際は目立たぬよう対応したり、差しつかえる場合は職員同士で入居者をイニシャルで言ったり書いたりして配慮している。人に合わせくだけたり気をつかったりと言葉かけも変えているが「親しきなかにも礼儀あり」で尊厳を守っている。リビングの一角にカウンターがあり、個人記録はここで書かれ目の届かない所に保管されている。一年間の記録や金銭関係はデイサービスの保管場所に置かれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、「ホームは家庭なので時間で縛らない」と起床、就寝時間等職員は状況に応じてできる限り希望に添えるよう心がけている。理念の1つに「その人らしい生活を大切にする」を掲げ、落ち着いて和やかな雰囲気の中、入居者は自分の好きなことや楽しみごと、家族のように楽しくおしゃべり、居室で休憩、外へ散歩、畑仕事、ベランダで日向ぼっこ等をして過ごし、一人ひとりの体調や精神状態、ペースを尊重しながら見守りのもと支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしひげとり、台ふき、茶碗ふきなどできることに関わって頂いている。メニューは入居者の希望を聞いたり、日頃の食べ具合を参考に栄養を考え作られている。毎食彩りを考えたり調理法を工夫しているがアレルギーのある人へは調理の仕方を変えることもある。毎食、畑の旬の野菜を多く取り入れ栄養価も高く、入居者は食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であるが毎日入る人は数名で大体は1日おきの午後の時間帯に入っている。入浴拒否の人もいてタイミングを工夫して誘っているが、不穩を避けるため無理強いせず、数日はその気になるまで待つようにしている。石鹸は個別のものが使われている。機械浴が必要な時はデイサービスを利用している。毎月デイサービスに白鳥温泉の湯が運ばれてくるのでその時は入居者もよばれて出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花見や夏のバーベキュー、秋祭り、イルミネーションの見学、遠足など季節毎に行事があり、入居者は楽しんでいる。また、おちよぼ稲荷、白鳥庭園、戸田川緑地、荒子観音などへも天候を見て出かけており、外出する機会も多い。ホームの中でも入居者同士が本将棋をしたり、知恵の輪やトランプ、カラオケを楽しんでいる。ボーリングの対抗試合を1階と2階ですることもある。毎年名古屋市認知症グループホーム協議会の輪投げ大会に参加するのも楽しみの一つである。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日体調を見て散歩に出かけ日陽しや外気浴をしている。歩行困難な人も車椅子を利用し目線で自然をながめストレスを発散できるよう努めている。毎月1日、15日は神社へお参りに行き、お賽銭をあげている人も多い。外食、喫茶店、買い物にもよく出かけている。美容院や病院など個別の外出にもできるだけ希望に沿うよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間や入居者が不穩になりやすい夕方、職員数が少ない時間帯以外は玄関やフロアの鍵はかけてない。施錠することで入居者が一層不穩になることがあり、職員にも鍵をかけず安全を見守るにはどうしたらよいかを考え努めてほしいとの思いから施錠していない。近所の方も一人歩きした時の声かけや見守りをして下さり、年々支援してくれる人が増えてきた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回夜間を想定し行っている。消防署や地域の人々の協力を得て行われ、入居者もできる時は一緒に参加した。職員や地域の人が入居者の代わりになり、車椅子に乗せ誘導の仕方を訓練した。消防署からは初期消火の仕方、担架の作り方、応急処置の仕方を教わった。消火器の点検も定期的に行われている。米、水は備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食の摂取量を毎回記録している。糖尿病の人がいるが量を少な目にすれば普通食でよいとの病院からの指導で野菜を多めにとり、おやつは糖分を摂取しないよう配慮している。血糖値は安定している。献立は2週間ずつ立てていて、時々デイサービスの調理師や入居者の家族の栄養士に見てもらい参考にしている。水分摂取は1日1リットルを目標にしており、個人の魔法瓶やペットボトルにお茶を入れ自室へ持っていかれる人もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には明かりとりの大きな窓ガラスがあり、中から庭の木や花を眺めることができる。広いリビングには、手作りの桜木が飾られ室内でも季節が感じられた。身体をつぼぬや体操の順とその時の歌詞がはってあり、音楽レクに使うオルガンもある。「なごみの家族」に入居者の写真とプロフィールがはってあり、常に皆が楽しめるリビングの雰囲気に工夫されていた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットがあり、各自の衣類や持ち物が整理されている。テレビやソファを置いて自室で好きな時間を楽しむ人もいる。仏壇を置いている入居者もいて、毎日拝んだり掃除をすることで平穏な独自の日々を過ごしている。転倒骨折を防ぐため、畳敷きに布団を敷いている人もいる。タンスを置いたり、壁には好きな動物写真や塗り絵、カレンダーを掛けてその人らしい部屋の雰囲気で生活を楽しんでいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。